

新技術名：‘アキタゴールド’の収穫時期別果実品質（平成4～6年）
（果皮色と果心内エチレンの変化による収穫適期の判定）

普・㊦

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当

担当者 森田 泉・久米靖穂・鈴木栄司*・上村大策

※ 秋田県農業技術開発課

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ねらい

新品種‘アキタゴールド’の果実特性を明らかにするために、収穫時期別の果実品質について検討し、収穫適期の指標と簡易判定法を確立する。

○経過と方法

- ① 供試樹：平成4年 実生/M.26（高接4年生）
// 5年 実生/マルバ（高接10年生）
// 6年 ジョナゴールド/M.26/マルバ（高接3年生）

② 試験内容：

採収日	年次	満開日	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目	第5回目	第6回目
	平成4年	5/12	139	146	153	160	169	
	平成5年	5/18	135	142	154	163	169	175
	平成6年	5/11	133	140	148	156	161	

果実は採収後、直ちに果心内ガスをガスクロマトグラフにてエチレン濃度を測定した。果皮色は‘ゴールデン・デリシャス’用カラーチャートと色彩色差計で果実赤道部を調査した。その後果実硬度、糖度などの調査を実施した。

○結果の要約

- ① 果心内エチレン濃度の変化は平成4年が満開後153日、平成5年は満開後175日、平成6年は満開後148日の調査でピークになった。
- ② 果皮色の変化（黄化）と果心内エチレン濃度の関連性を見ると、果皮色が急激に黄化し始めてから（カラーチャート指数、色彩色差計で調査）7～9日遅れて果心内エチレン濃度が上昇する傾向にあった。
- ③ 果皮色の黄化（色彩色差計から算出した色相角度）と糖度には平成5年が $r=0.751$ 、平成6年で $r=0.922$ と高い相関関係が認められた。
- ④ 即日販売用果実の収穫適期は満開後日数で150～170日頃であり、果皮色はカラーチャート指数「5」を越える時点が目安と考えられた。

(2) もたらされる効果

果皮色（カラーチャート）の変化による収穫適期の判断。

(3) 普及対象範囲

県内全域

(4) 普及上の留意事項

- ① ‘アキタゴールド’の果皮色は透明感の高い黄色であり、‘ゴールデン・デリシャス’用カラーチャートの色調と異なるので比色する際は注意する（特に指数5以上の場合）。
- ② ‘アキタゴールド’の果皮色は陽向面と陰向面で著しく異なるので、比色する際は中間的な場所で行う。
- ③ 果皮色の比色は果実赤道面で行う。

(5) 発表文献等

東北農業研究 第47巻（平成6年）

II 具体的なデータ等

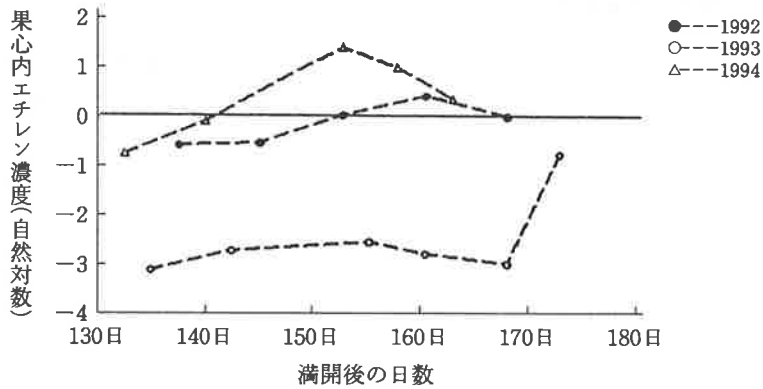


図-1 果心内エチレン濃度の変化

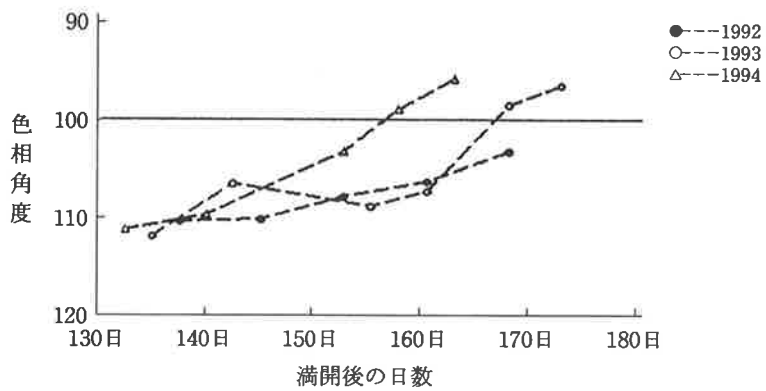


図-2 色相角度の変化

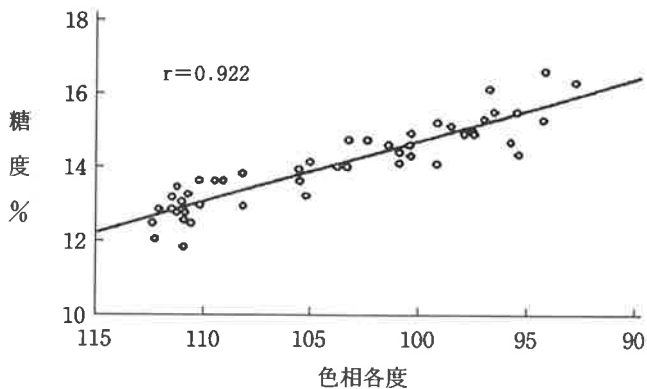


図-3 ‘アキタゴールド’の色相角度と糖度の関係

発行年月	9506	キーワード	153
基礎分類	05	キーワード	
作目名	35	キーワード	